



TITLE:

會報

AUTHOR(S):

CITATION:

會報. 天界 1923, 3(31): 247-247

ISSUE DATE:

1923-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159885>

RIGHT:

て居る。何時まで続くか自分で見込みがつかぬ先ず二三年の豫定である。

通常の本に記して無い事或は認め難いさされる廣範圍の星雲又は銀河の各部の構造其他暗黒星雲等特殊な問題も記したいと思ふ。

此の様な連續的に多くのものを扱ふ場合には調査觀測の不備突然の方針の變化。記事の斷續等は有り得る事であるから御許しを乞ふ。

○變光星發見法

天文月報六月號に神田理學士が述べられたる如く 8時に見つけ得る未知變光星が數千ある。如何にして見つけるか此れは困難な問題である。

寫眞的 最上の方法であるが素人では出来ない。

眼視的には殆んど觀測の副産物として見つかる。

1. 變光星用星圖をなき星にて明らかに極限より大なるものを觀測する。

2. 比較星より見出す。比較星が變光星である時には多くの觀測が不調和事が起る。光階法で觀測しないさ判然とは出ない。

此他種々偶然的出來事から發見し得るが見つけるつもりで搜しても見つからぬ。何れにして見つける爲には何等かの光度觀測に従事するに限る。疑はしいものが見つかった場合には根氣よく必ず光階法で適當な比較星を使つて觀測する。第一に見出すべきは變光範圍と種類である。週期を見出すのは長週期のものでないと極めて困難である。短週期のものは一夜に連續的の觀測をして當りをつける。アルゴール種だと極小を見出すに努力し發見したなれば直ちに20分おき位の連續觀測をやる。

五 月 例 會

豫記の如く十九日午後二時より星學教室に於て開會、下の講演があつた。

小出長十郎の傳

上 田 環 氏

ニュートンの引力説の進化の順序 荒 木 俊 馬 氏

會するもの十五名、少數であつたが後茶話會を催し時の移るを知らなかつた。

岡山支部五月通信

- 一、天界研究會 例により第二土曜日午後七時から宮原幹事宅で開催した。
- 二、例會 十五日午後八時日本銀行岡山支店露臺で開會、左記の講演があつた。同支店長大塚氏の厚意によつて多數の來聽者を得たことを深く感謝するのである
層にある五月の星座について(實地觀望望遠鏡使用) 水野 千里氏
- 三、星名詩 本書は熱心なる會員池田喜太郎氏の著で騰寫版摺半紙五十七枚に三百四首を詠ぜられしもの、その二、三首を左に、

恒 星

恒星垂象緯遠近最難知未必同光色如々舍不移

海 王 星

天末海王運長懷亞氏勳禹州書萬卷曾映此星文

大 角

攝提陪左右大角 星煌呼做天王座豈無麟作祥

天 津 星

銀漢倒梁柱天津架九橋橋邊砂散玉 無復綠波搖

疎 星

松嶺夜風號雲馳脚底關燈光認村近何料是疎星

山口高等學校天文同好會通信 (六月三日)

會員竹廣君と柏村君との熱心が今度新に山口高等學校天文同好會といふものを組織せしむるに至りました。第一回の試みとして今月一日諸教授を招待し土星の美しさを見て貰ひました。どうして聞えたのか同夜山口高等女學校の若い人達の十數人にもアツタツクされて豫想以外の盛會でした。次には今月十六日會員丈が集つてゆつくり觀測する筈です。會員も近々ふえて嬉しく思ひます。